

【解答】

設問(1) どの誰だかわからないが、一人の人、又は複数の人たちが、携帯電話の着信音として使うために、蚊の飛ぶ音を真似たものを作り出した。それがあれば、生徒が授業中に、教師に気づかれることなしに新着メール通知を受けとることができるだろう、という考えがあつてのことであるのは明らかである。

設問(2) 蚊着信音によって生徒は教師の目を欺いていると思っているが、そもそも、教師もその様な着信音など聞かずに済んだ方が気が楽だし、どちらに分があるとは言えないため。

設問(3)

解答例 1. 三角形の面積の求め方を忘れること

解答例 2. 1 クォートは何ポイントなのかを忘れること

解答例 3. 不動産について話をすることが止められなくなること

設問(4) 世の中には、見えなくてもよいものや、聞こえなくてもよいものが存在するという事。

設問(5) 我々の肉体が変化するという事は、私たちにとってかつて存在したものは存在しなくなる。つまり、見えなくなり、その代わりとして新しいものが、見えるようになる、ということである。

設問(6) いずれにせよ、もしあなたが20歳以下なら、このページに書いてあることは白紙も同然なのだ。

理由…若者は、文字通りの表面上の意味は読み取れても、経験が乏しいため、その本当の意味を実感することは難しいから。

【全訳】

■時とともに失うものと、得るもの

① ある報告によると、20歳を超えた人の大半には聞こえない携帯電話の新しい着信音があるそうだ。その音はモスキートと呼ばれているものに由来しており、モスキートとは大人たちがまじめな仕事に精を出そうとする場所から不良どもを追い払うという、高尚な目的のためにウェールズの警備会社が発明した装置だ。この装置は17キロヘルツの音を出す、これは大人の耳が聞き取るには高すぎるけれども、『ニューヨーク・タイムズ』の続報からわかるように、若者にとっては「耳をつんざくような」音である。^(A)だれかはわからないが、ある個人あるいは何人かの人々が、携帯電話の着信音として使うためにモスキート音を模したものを作り出したがそれはどうやらこの音によって、授業を受けている最中に、教師に知られずに新しい携帯メールが届いたことが生徒にわかる、という考えがあつてのことだったようだ。

② 『タイムズ』紙は、歓迎すべきではあるが、無秩序を容認する非常に珍しい態度で、大人の権威に対する若者の終わりなき戦いにおける、工夫に富んだゲリラ戦術としてこの開発を褒め称えた「ちょっとした工学的柔術」と『タイムズ』紙は書いている。しかし、この戦いでどちらが勝者なのか、完全にはっきりしているわけではない。この音を聞くと、歯の浮くような不快な気持ちになるらしいが、それはつまり、生徒が突然皆しかめ面をしたら、だれかがちょうどメールを受け取ったところだと考えてほぼ間違いない、ということだ。いずれにせよ、「振動のみ」に設定することの、何がまずいのだろうか？

③ この話の本当の重要性は、もちろん別のところにある。ニュースになるのは、生徒が教師をからかっているという、古代ギリシアでさえニュースにならないようなことではないし、市民社会がよりどころとする信頼と尊敬からなる骨組みを、科学技術が急速に瓦解させている、というすでにだれもが知っている事柄でもない。ニュースになるのは、中年の人々に自分たちが何かを失っているところだと感じさせてしまう、もう一つの方法が見つかった、ということなのだ。

④ 人は、ゆっくりではあるが、戻ることはない体の機能の衰えを、悪いことととらえがちだ。しかし、悪いことなのだろうか？確かに、それはあまり考えたくない事柄と結びついている。ある日、ティーンエイジャーや犬には完全に聞こえる音が聞こえなくなったことを知る。(ところで、そういった対称性は重要なのだろうか？我々に聞こえない音が犬には聞こえるからといって、一つの種として、惨めに思ったりするだろうか？)その後すぐに、三角形の面積の計算の仕方や、1クォートは何ポイントだったのかを忘れてしまったことに気づく。その時点から、自分が不動産について話すのをやめられなくなっているのに気づくまでに、長くはかからない。それは、だんだんと岩が増え、草木が生い茂ってゆく、ほぼ必ず一いや必ず一死へと向かう小道への第一歩なのだ。これらのことに、どのような好ましいことがあるのだろうか？

⑤ ところでまず第一に、だれが他人の携帯電話の音を聞きたいだろうか？モスキート音は、ジョージ＝エリオットが『ミドルマーチ』の中で描いたリスの心臓の鼓動のようなものだ。「もし我々が、普通の人間の生活のすべてを感知する鋭敏な視覚や感覚を持っていたら、それは草が成長する音やリスの鼓動を聞くようなもので、静寂の対極にあるその轟音のために命を落とすことになるだろう。実際のところは、最も頭のよい者でも、たくさんの愚かな考えを抱えて歩き回っているのだ」モスキート音は、知らずにすんだ方が都合のよいものの一つなのである。世の中はおそらく、そのようなものでいっぱいだ(でも、どうしたら知ることができるのだろうか?)。たぶん、三角形の面積もそれほど重要ではないだろう。たぶん、結局のところ重要なのは不動産なのだ。

⑥ 肝心なのは、たとえ何歳になろうと心や体の発達は終わることはないということであり、そして発

達は、人間であることを面白くしてくれるものの一つなのである。我々は成熟するにつれ、意見や、性格や、音楽の好みが変わると思ひ込み、しばしば若い頃の自分を裏切っているように感じる。しかし実際は、我々の体に変化しているだけで、そのことが我々のものの見方や、気質や、ベリーー=ジョエルに対する忍耐の程度を変えるのだ。それはどうすることもできない。化学的性質が変わってしまったのだ。

⑦ このことが意味するのは、自分たちにとって以前は存在していたものが見えなくなり、画面の外へと出て行ってしまい、その代わりに新しいものが視界に入ってくる、ということだ。ホルモンは失うかもしれないが、他人の気持ちを理解する能力を得る。言い換えれば、何かを失うことのすべてが、良し悪しを基準とする尺度の一方の端にあるわけではないのである。20歳を超えた読者は、新しい着信音を聞き取れないかもしれない。自分の電話にそれをつけても、音がしないのと同じであろう。しかし、20歳にならない読者のほとんどは、この「コメント」の欄を「聞き取る」ことができないだろう。もちろん彼らは言葉を見るだろうし、自らが何かを読んでいて、それが意味をなしているということは想像するだろうが、本当に「理解する」ことは決してできない。この「コメント」は、彼らの能力の及ぶ範囲を、はるかに超えたところにあるからだ。^(F)実際、もしあなたが20歳未満だったら、このページは白紙も同然だろう。

【解説】

設問(1) 全体として,evidently with 以下は訳し上げるとわかりづらいので,「だれかがモスキート音を模倣したものを作ったのだが,それはどうやら…という考えがあつてのことだったようだ」などと訳し下ろすとよい。

- ・ A person or persons unknown 過去分詞 unknownはperson(s)を修飾する形容詞用法。単独でも名詞の後に置くことがある。「だれだかわからないが,ある個人,あるいは複数の人間が」などと,意味が伝わりやすく自然な日本語になるように工夫が必要。
- ・ a copyは「～を模倣したもの,～に似たもの」などと言葉を補う。
- ・ the Mosquito buzz 「モスキート音」 buzzは「プーンという音,低いうなり」だが,そこまで訳出する必要はない。
- ・ for use as a cell-phone ring toneは名詞useを中心としているが,動詞的に訳して「～として使うために」とすると日本語として通りがよい。ringtone 「着信音,着メロ」
- ・ evidentlyは「明らかに」と「見たところ～らしい」の両方の意味があり,どちらにするか迷うところ。「明らかに」は「何らかの証拠があつて」というニュアンスを持つ。この部分は筆者の推測として「どうも～らしい」の方がより近いだろう。
- ・ thatはthe ideaと同格の節をつくる接続詞。
- ・ itはthe Mosquito buzzを受ける。
- ・ A enables B to doは「AはBが～ することを可能にする」が直訳。無生物主語なので,「Aのおかげで(Aによって) Bは～ することができる」などと自然な訳にする。
- ・ receive notification of new text messages 「新しいテキストメッセージの通知を受け取る」は,「新たにテキストメッセージが届いたという通知を受け取る」ということ。text messageは「携帯メール」のこと。
- ・ while sitting in classの意味上の主語がstudentsであることは明らか。in classは「授業中で」の意。「教室で」 in a (the) classroomではないので注意。sittingは,通常授業中の生徒は座っているものだからという理由で使われているにすぎないので,文字通り訳出するのではなく「授業を受けている最中に」などとすればよい。
- ・ the knowledge of ～は2通りの解釈が可能。of以下とknowledgeが動詞・目的語の関係になる「～を知っている」と,主語・動詞の関係になる「～が知っている」の2通り。「(生徒が)教師を知らずに」では意味を成さない。「教師が(着信を)知らずに」と考えるべき。「教師に気づかれずに」などとすればよい。

設問(2)

- ・ here 「ここでは」とは,直前の文にあるyouth's eternal war against adult authority 「大人の権威に対する若者の終わりなき戦い」を指し,具体的には「授業中に教師に気づかれずにメール着信を知ろうと,モスキート音を使う若者の策略」を意味する。「勝者がはつきりしない」のだから,この若者の策略が完全に成功しているわけではないということ。その理由にあたる箇所を本文中で特定する。英語の論説では,結論→根拠という順で述べられることが多いので,直後の文(第2段第3文)に注目。
- ・ When you hear the tone, it apparently sets your teeth on edge 「その音を聞くと,歯の浮くような気持ちになるらしい」とある。set one's teeth on edge 「人に不快な感じを与える」はなじみがないかもしれないが,第1段第3文後半(but, as we learn…)には,その音(=モスキート音)が若者にはear-splitting 「耳をつんざくような」音であることが述べられているので,おおよその意味は推測できよう。した

がって,モスキート音が鳴るとthe entire class suddenly grimaces 「クラス全体が突然しかめ面をする」(第2段第3文)ため,教師には音そのものは聞こえないが,モスキート音が鳴ったことはばれてしまうのである。

- ・解答のポイントは,「教師に音そのものは聞こえない」「生徒は不快な顔をする」「だれかがメールを受け取ったことが教師にもわかる」「教師を出し抜いたことにならない」という点を盛り込むことと,理由を問われている問題なので最後を「～から」「～ので」と締めくくることが。

設問(3)

- ・there is A to like about B 「Bに関して好むべきAがある」が元の文.本文のWhatがA, any of thisがBにあたる。
- ・下線部を含む第4段は第1文にあるように, atrophying 「衰えること」＝「年をとること」が話題になっており,その例は第4文(One day, …)および第7.8文(Soon after that, …)に挙がっている。すなわち,「若者には聞こえる音が聞こえなくなること」(第4文),「三角形の面積の計算の仕方を忘れること」「1クォートは何ポイントか忘れること」(第7文),「不動産について話すのをやめられなくなること」(第8文)である。このうちのひとつを答える。

設問(4)

- ・下線部直後にコロンをはさんでエリオットの言葉が引用されており,「もし我々が…すべてを感知する鋭敏な視覚や感覚を持っていたら,…リスの鼓動を聞くようなもので,…その轟音のために命を落とすことになる」と述べられている。さらに続いて「実際のところは,最も頭のよい者でも,たくさんの愚かな考えを抱えて歩き回っている」とある。つまり,この世のすべてを知ることは不可能であり,むしろ知ろうとすることが害になることもある,ということ。
- ・さらに同段第4文のエリオットの言葉の後(The Mosquito tone is one of …)には,「モスキート音は知らずにいる方がよいもののひとつだ」とある。
- ・こうしたことを考始わせると,「世の中にはわからなくてもよい物事がたくさんあるということ」などとまとめられる。

設問(5)

- ・Thisは基本的に前述のことを受けるので,前段(第6段)を見る。「実際は,ただ私たちの体に変化しているだけだ」(第3文),「化学的性質が変わったのだ」(最終文)とあるがこれは,「何歳になろうと発達は終わることはなく,それは人間であることを面白くしてくれる」(第1文)とあるように,「年をとること」を表している・第3文冒頭に「しかし」とあるのは,「年をとる」ことに伴いがちなネガティブなイメージを・筆者が看多正しようとしているため。Thisの内容として・「年をとる」という言葉だけでなく,「体に変化する」という点も盛り込んで訳出したい。
- ・「このこと」は前述の通り。全文を見てから内容的につながるか再検討すること。
- ・thatはsomethingsを先行詞とする関係代名詞。usまでが関係詞節。
- ・were present to～「～に対してそこにあった」＝「～にとって存在していた」
- ・invisible 「見えない」
- ・go off the screen 「画面を離れる」は「見えなくなる」ことの言い換え。「画面の外へ出て行く」などとするとわかりやすい。
- ・compensation 「埋め合わせ」とは,「以前は存在したものが見えなくなる」という喪失の代わりに与

えられるもののこと。

- ・swim intoは「流れるように入ってくる」ことを表す。何かが見界の外へ出て行っても,次のものが途切れることなくスムーズにやってくるイメージ。

設問(6)

訳：

- ・for all ~は「~にもかかわらず,~であるけれども」の意。
- ・この場合は,for all intents and purposesで「あらゆる点で,事実上,実際に」の意の慣用表現。しかし,知っている受験生は少ないと思われる。For all~は必須の熟語であるので,こちらから「どんな意図や目的を持っていたとしても」などとできれば,ひとまず大丈夫だろう。
- ・under~「~より下」なので,「20歳以下」は不正確。「20歳になっていないなら」としてもよいだろう。
- ・might as well doで「~ するのと同じだ」の意。「~ する方がよい」という訳もあるが,ここでは「白紙同然」とするのが適切。

理由：

- ・まちがいでなく文章がつづられているページが「白紙同然」だというのは,「そこから何も読み取ったり理解したりできない」ということ。同段第5~7文(But most...)にも「20歳にならない読者の大半は,この『コメント』(大文字であることから,この文章が掲載されたコラムなどのタイトルと考えられる)を『聞く』ことができないだろう。…本当に『理解する』ことは決してできない。この『コメント』は,彼らの能力の及ぶ範囲を,はるかに超えたところにある」とある。
- ・この文章では,特に第6・7段で明らかのように,年をとるということは以前は持っていたものを失っていくことである,ということが述べられている(もっとも,何かを失うことは同時に何かを得ることである,と付言することで,それは否定的にではなく肯定的に論じられている)。つまり,「白紙同然」とは,20歳未満の人はまだ何も失っていないので,年をとることと喪失の経験について書かれたこの文章の内容を本当の意味で理解したり.それに共感したりすることはできない,とうことを意味しているのである。